

関西学院 千里国際中等部・高等部

新シリーズ「Authentic Opportunities 本物に触れる教育」 第7回

SOIS のバイリンガル図書館

総合科 / 司書教諭 青山 比呂乃

関西学院千里国際キャンパスの玄関を入ると、目の前にガラス張りの大きな部屋が見えます。
これが、いろいろな意味で SOIS の中心にある図書館です。

千里国際キャンパスには、おもに英語で授業をする幼小中高の大阪インターナショナルスクール（OIS）と日本の中学・高校である千里国際中等部高等部（SIS）が共存しています。そのことによって、インターナショナルスクール IS としては、日本語をしっかり学習できる場所、日本の中高としてはまれな、英語を母国語に準じて学習できる場所になっているのです。

図書館には、現在 3 万 870 冊の日本語図書と 2 万 7270 冊の英語の図書があります。しかも、その内容やレベルは、在籍する児童生徒の年齢に合わせて、4 歳からの子供のための読書や調べ物に使える本に始まり、高校生や教員の使う、大人に必要な情報や読み物まで多種多様です。雑誌や新聞も、日英それぞれにあり、日本語の NON・NO と英語の Seventeen が隣同士においてあります。また、わずかですが、SOIS で開講されている第2外国語：中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ドイツ語、フランス語の絵本、図書、雑誌などもあります。

閲覧室の中は、おおよその区わけで、幼稚園や小学生向けの本のエリアと、中高向けのエリアに分かれています。仕切りはありません。それだけに、勝手な行動をとればトラブルも起きがちです。さまざまな言語的、文化的背景を持つ14学年の生徒が、たがいに迷惑をかけず、節度を持って、しかも十分に活用する、という場。自立した個人の学習者として、学習や他の人へのリスペクト、さらには自分自身へのリスペクトを示すにはど

うしたらよいかを実践する場となっているのです。

全員がそれぞれの時間割で動いていて、中高と幼小では、時間枠も違うのでチャイムもならないため、時間は自己管理。授業の時間になれば、誰に言われなくても教室に向かいます。空いているキャレルデスクで、小学生が一所懸命宿題をしていることもあります。高校生がレポートを書いたり、問題集を解いたりしていることが多いでしょう。最近では、ワープロでのレポートや、プレゼンソフトでの発表課題が大変多く、生徒は朝の 8 時から 3 時半までは図書館でなら空いている PC を自由に使えるため、館内に 24 台あるラップトップも 9 台あるデスクトップも、PC はフル稼働しています。

現在の図書館の悩みは、生徒数に対して、席が足りないこと。と言っても、SOIS 全体で 700 名、中高だけなら 590 名の生徒なので、通常の使い方をする学校の場合、その 1 割の 70 席もあればよいのですが、1 日平均 3.5 クラス（ピーク時は 5.5 クラス）が図書館で授業（リサーチ・調べ物・ブックトーク・読み聞かせ等）をしている上に、空き時間に図書館で過ごす生徒が多く、昨年度は 1 日平均の入場者数が 900 名を超えているため、PC 専用の椅子も含めて 114 席はほとんど常に埋まっています。特に、レポートや発表課題の締め切りがある、学期半ば過ぎになると、朝も昼も放課後も多くの生徒でにぎわい、放課後は PC がとても足りないのに、48 名入れる 3F ラボを開放してそちらで宿題ができるようになっています。

英語や日本語の資料についても、絵本や紙芝居から始めて、10 代に読みたいような物語、さらには大人の小説まで、幅広くいろいろな好みにあわせた読み物が必要です。特に言語の保持や伸長のためには、オーラルで話を通じる、ということだけでなく、読み書きの機会をどれだけ持てるかが、大きな違いとなります。SOIS 図書館には、英語では4歳児むけの絵本から始めて、チャプターブックスと呼ばれる、絵本を卒業した子供たちが読み始める物語の本へと様々なレベルの図書があり、しかも、物語だけでなく、地震についてとか、エジプトについてとか、小学校3年生くらいで始まる、リサーチの授業で使えるような簡単な英語



エジプト調べ発表の時の図書館入口側。手前が中高エリア、画面奥が幼小エリア